

作家も愛した絶品カレーを小川町で！

司書 新井

「なんであのお店のカレーってあんなにおいしいんだろうね。そして決してごはんが余ることないもんね。ふんだんにルーがかけてあって、お皿からはみだしそうで、それだけで豊かな気持ちになるよね。また茄子がお店の名前に入ってるだけのことはあって、いつも甘くておいしいんだよね！」

(『もしも下北沢』よしもとばなな著 より)

食レポ企画第2弾は、今年3月にオープンしたカレー店「小川ぐらしの茄子おやじ」。元々は下北沢で愛される名店で、その美味しさはなんと、よしもとばななの小説に登場するほど。上記の通りベタ褒めです。大物作家の賛辞の後でやや気遅れしつつも、レポートします！

今回はおがわ学関係の先生方と訪問。木のドアを開けると、明るさを抑えたモダンな店内には、涼やかなボサノバ調のBGM。どことなく漂う文化と教養の香り……いや何よりスパイスの香りに期待が高まります！

ドリンクを出してもらおうと何やら発見。テーブルに用意された可愛らしいストロー、紙製です。さりげない環境への配慮、これこそ本当のオシャレですね。紙ストローで飲むアイスコーヒーはなんだか深い味わいがします。

紙の耐水性に一同感心していると、カレーが到着！ 私のチョイスはちぎんカレー。円形に盛ったご飯の上に、オーソドックスな見た目のルーが品よくかけられています。一口食べると、まろやかな甘みが口いっぱいに広がる！ おいしい！ 後からくる辛さはマイルドで嫌味がなく、味をしっかり引き立てます。ゴロツとしたチキンは口の中で優しくほどけて絶品。付け合わせもポイントで、福神漬けではなく、らっきょう。「カレーのお供はらっきょう派」の校長先生、とってもお気に召されていました。

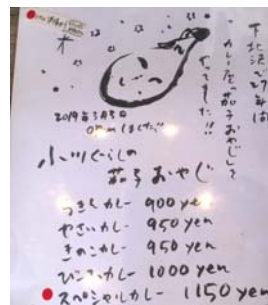
使われている野菜は地元産にこだわっているそう。地域を大切にする人達の思い、そのような人々を惹き付ける小川町の魅力を、あらためて肌で感じた、いやおもに舌で感じた思いです。ごちそうさまでした！



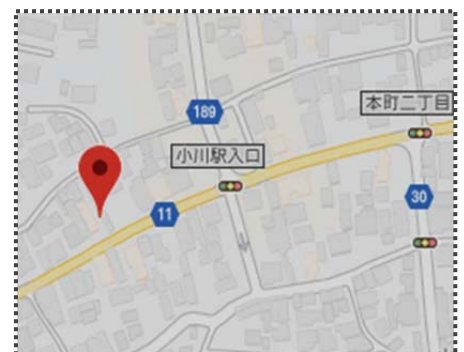
ちぎんカレー ¥900



可愛くてエコな
紙ストロー



メニューいろいろ
迷う！



「小川駅入口」信号すぐそこ

さて、本話を少しだけ。前出の小説で描かれる下北沢は、様々な個性がつつれ織りになって営まれる、雑多だけれど穏やかな時間が流れる街。主人公・よっちゃんとは人々との触れ合いの中で、父を奪われた過去と少しずつ折り合いをつけてゆきます。ちなみに引用したセリフは、物語中とくに印象的なシーンで語られるもの。(本校図書館でご確認下さい)

小川町にも、どこか下北沢に似た優しい空気が流れているのかも……？ おがわ学を通して、その印象が深まることを期待します。そう考えたら、心と脳裏に浮かんだのは「誰かの優しい微笑み」の画……。誰かと思ったら何のことはない、メニューに描かれた茄子のニコリ顔が、目に焼き付いていただけでした。